

1. 地区の概況

【位置】
谷津小学校区内の中央部に位置し、JR津田沼駅の商業集積地に隣接する。

【地形・地勢】
地区一帯は、かつては市街化区域から逆線引きされた一団の農地として、優良農地が多数存在していたが、新たな土地利用への転換の機運が高まっていることを背景に、JR津田沼駅南口特定土地区画整理事業による基盤整備が行われ、まちの骨格が形成されている。地区周辺には成熟した住宅地が立地し、谷津干潟や谷津バラ園など潤いのある環境にも恵まれている。地区北端の都市計画道路沿道には第一中学校が立地する。
JR津田沼駅に近い街区に都市的機能を集約し、多彩な便利施設が集積する複合型サービスゾーンをはじめ、高層・中高層住宅ゾーン、中層・低層住宅ゾーンなどの住宅や、緑豊かな近隣街区公園、集合農地など、多様なゾーンを段階的に展開したまちづくりが進められている。

【交通】
地区の北東方面にJR津田沼駅が立地する。地区内を都市計画道路（菊田台谷津線、津田沼谷津線）が通過し、地区北東端で交差する。

【人口・建物等】
老年人口（65歳以上の人口）の割合は6.5%であり、老年人口の割合は低い。谷津小学校区内の内、40%以上の人口を擁するため、人口密度が高い地区である。
JR津田沼駅南口特定土地区画整理事業による基盤整備の結果、建物密集度は市の平均よりも大幅に低く、昭和55年以前の建物は存在しない。

【地区内の施設等】
第一避難所及び一時避難場所として、第一中学校が指定されている。また、谷津奏の杜公園が一時避難場所に指定されている。地区内に補助避難所は指定されていない。なお、地区内に福祉避難所に指定されている施設はない。
第一中学校に防災倉庫が設置されており、谷津奏の杜公園は非常用給水施設となっている。また、病院・診療所は8あり、「津田沼中央総合病院」は救急告示病院である。

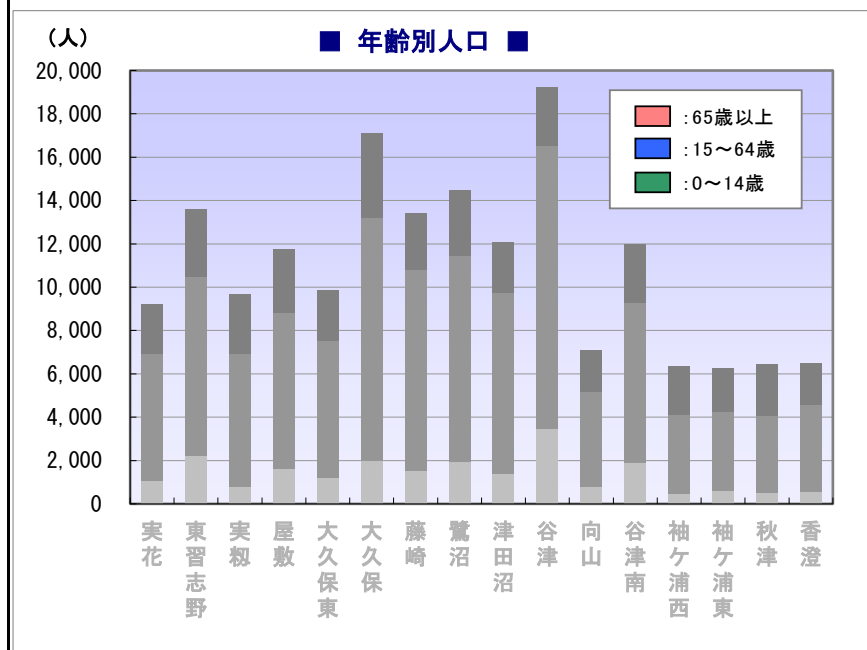
2. 位置図



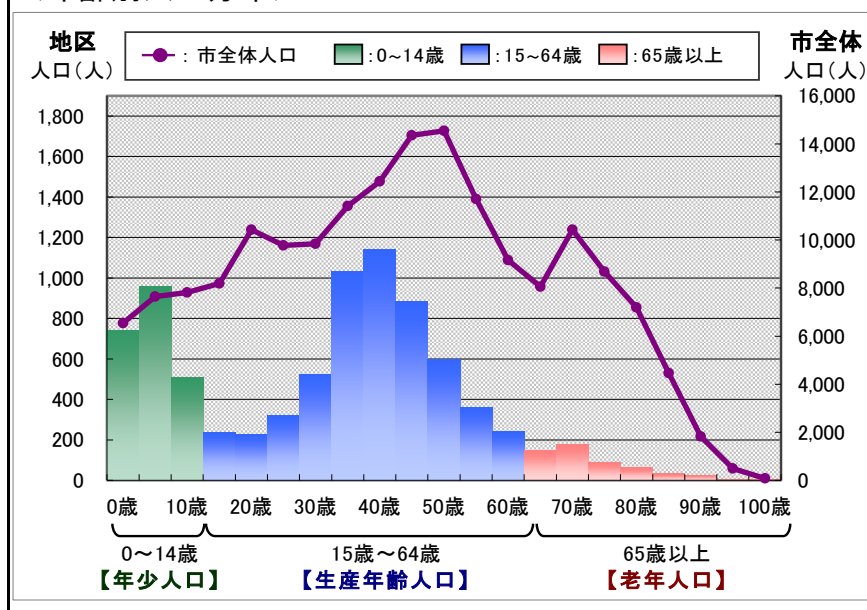
3. 基本指標

	地区内		市全域
人口	8,306 人	4.7%	175,065 人
(内訳)	-	-	-
0歳~14歳	2,210 人	10.0%	21,998 人
15歳~64歳	5,559 人	5.0%	111,846 人
65歳~	537 人	1.3%	41,221 人
老年人口割合	6.5 %		23.5 %
世帯数	3,199 世帯	3.8%	83,137 世帯
世帯当り人口	2.60 人	-	2.11 人
地区面積	0.31 km ²	1.5%	20.96 km ²
人口密度	26,424 人/km ²	-	8,351 人/km ²

<年齢別人口（他地区との比較）>



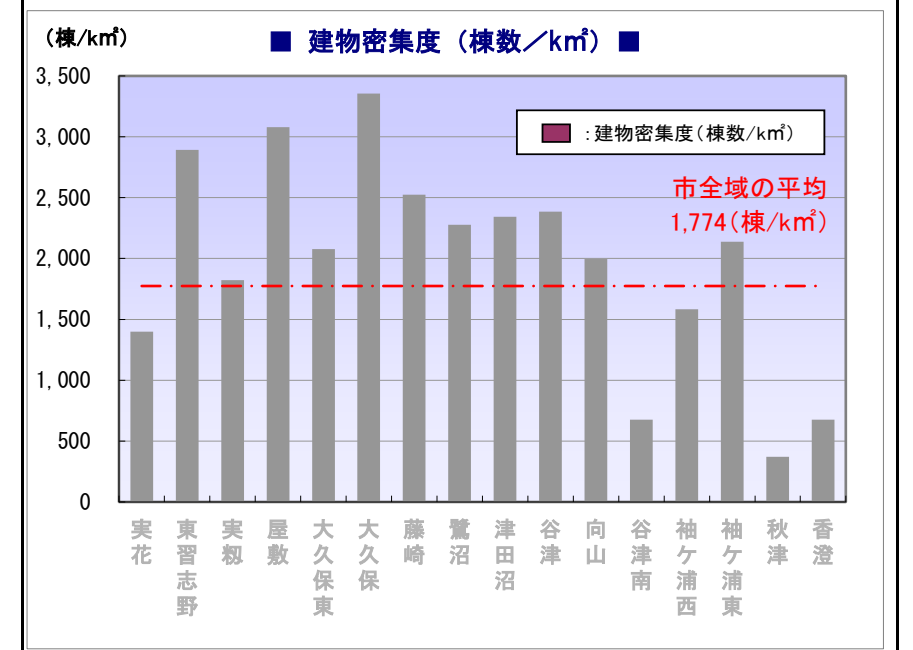
<年齢別人口分布>



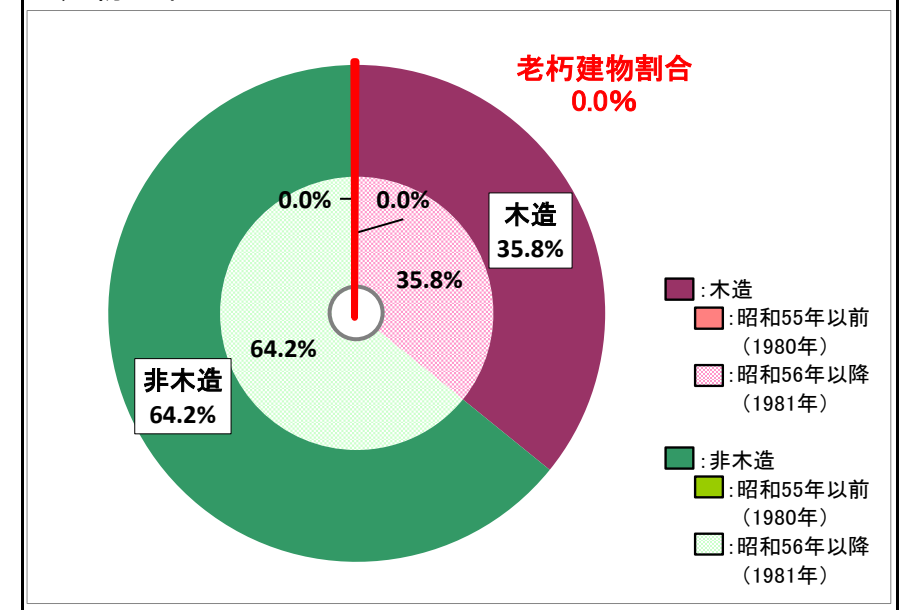
4. 建物指標

構造・建築年別建物棟数	構造	建築年	地区内	市全域	
	木造	~昭和55年	昭和56年~	0 棟	7,520 棟
昭和56年~			81 棟	19,915 棟	
小計			81 棟	27,435 棟	
非木造		~昭和55年	昭和56年~	0 棟	1,708 棟
			昭和56年~	145 棟	8,052 棟
			小計	145 棟	9,760 棟
合計			226 棟	37,195 棟	
建物密集度			719 棟/km ²	1,774 棟/km ²	
老朽建物割合			0.0 %	24.8 %	

<建物密集度（他地区との比較）>



<建物比率>



5. 地区対策支部

設置場所	住所	設置予定場所
谷津小学校	谷津5丁目1番32号	1階 会議室

6. 避難施設

種類	施設名称	屋外面積 (㎡)	屋外収容人員(人)	屋内面積 (㎡)	屋内収容人員(約人)
一時避難場所 (グラウンド等)	第一中学校	31,000㎡	31,000人		
	谷津奏の杜公園	22,000㎡	22,000人		
第一避難所 (体育館等)	第一中学校			1,634㎡	990人
補助避難所	なし				
福祉避難所	なし				

※ 一時避難場所は敷地面積すべてを記載しています。

7. 高齢者福祉施設

施設名	施設名
愛・グループホーム奏の杜	
愛・小規模多機能奏の杜	
脳が元気になるデイサービスかなで	

8. 防災倉庫・非常用給水施設・AED設置場所

種類	施設名	住所
防災倉庫	第一中学校	奏の杜1丁目13番1号
給水施設	谷津奏の杜公園	奏の杜2丁目12番
AED設置場所	第一中学校	奏の杜1丁目13番1号
AED設置場所	谷津奏の杜出張所	奏の杜2丁目13番1号

9. 消防・警察・医療機関

種類	施設名
消防署・出張所 【消防団】	消防本部中央消防署谷津奏の杜出張所
	なし
警察・交番	なし
病院・診療所	ファミリー産院つだぬま
	尾高内科・胃腸クリニック
	奏の杜さとう小児科
	奏の杜耳鼻咽喉科千葉いびき・無呼吸クリニック
	津田沼すぎむらクリニック
	津田沼南クリニック
	マイ形成外科スキンクリニック
メディカルスクエア奏の杜クリニック	

10. 自主防災組織

組織数	加入世帯数
9	2,124

11. その他防災施設

種類	地区内	習志野市全域
防災行政無線 (スピーカー)	0 箇所	49 箇所
ヘリポート 臨時離発着場	0 箇所	13 箇所
消防水利	56 箇所	2,191 箇所

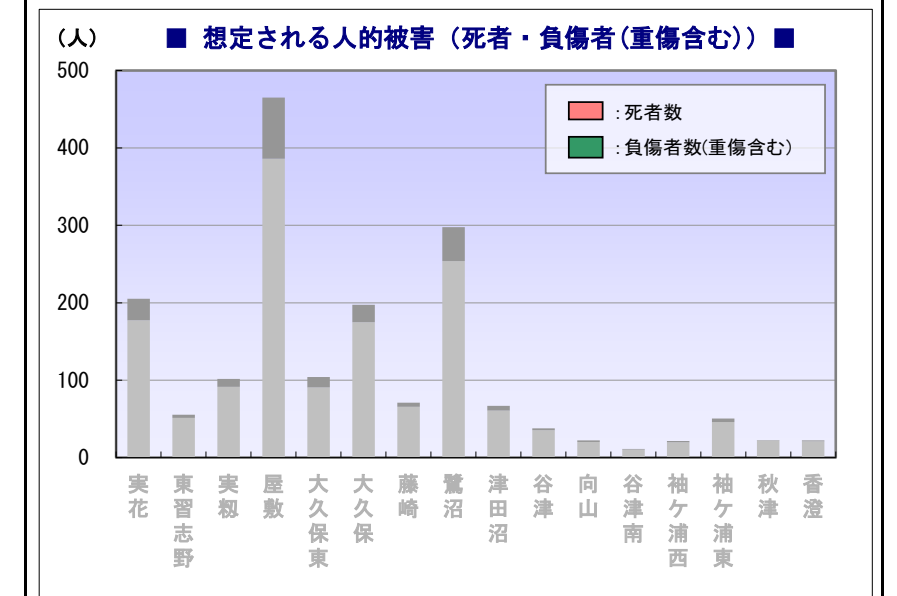
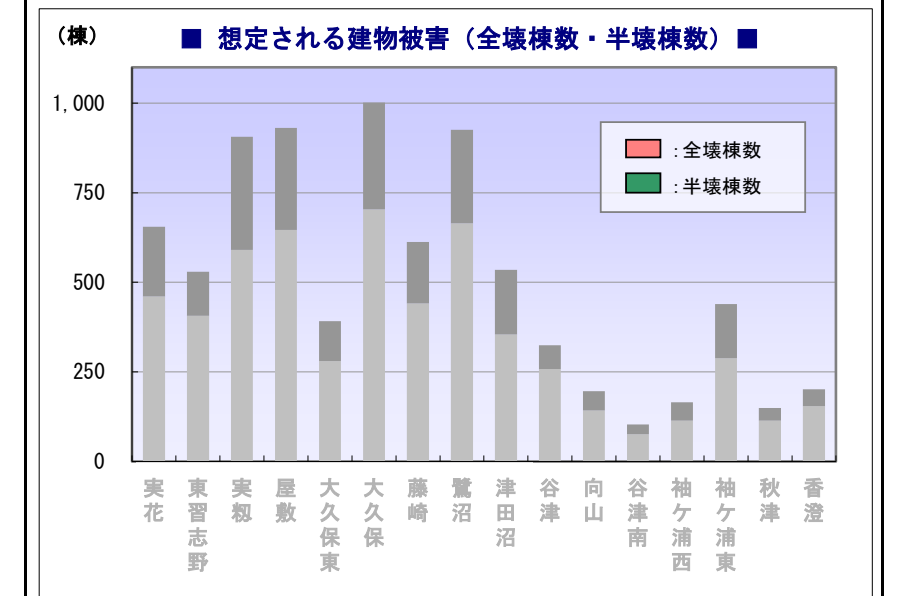
12. 土砂災害

種類	地区内	習志野市全域
土砂災害特別警戒区域 (急傾斜地の崩壊)	0 箇所	34 箇所
土砂災害警戒区域 (急傾斜地の崩壊)	0 箇所	36 箇所
急傾斜地崩壊危険区域	0 箇所	5 箇所

13. 各種災害被害想定結果

被害想定項目	被害数値 (当該地区)	被害数値 (市全域)
建物被害【全壊】(棟)	2棟	2,371棟
建物被害【半壊】(棟)	7棟	5,697棟
建物全半壊率(%)	4.0%	21.7%
火災被害【焼失棟数】(棟)	0棟	2,756棟
死者(人)	0人	226人
負傷者【重傷含む】(人)	2人	1,527人
避難所生活者数(人)	656人	28,628人
河川はん濫影響建物棟数(棟)	0棟	5,532棟
内水はん濫影響建物棟数(棟)	5棟	6,975棟

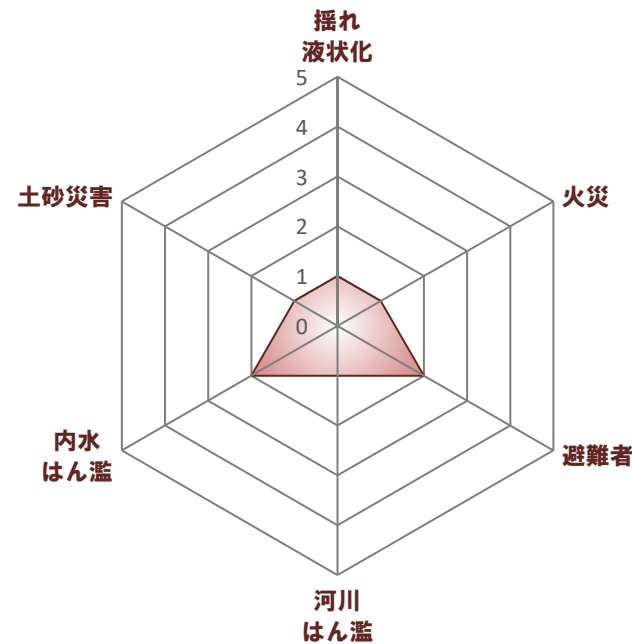
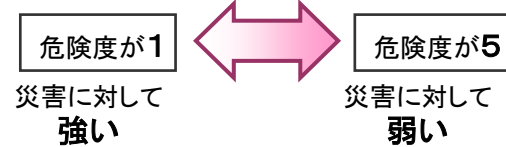
※ 地震被害の想定地震は、「千葉県北西部直下地震(M7.3)」です。



14. 各種災害の評価

評価項目		数値	危険度
地震災害	揺れ・液状化	揺れ・液状化による建物全半壊率(%) ※全半壊棟数/地区内の建物の総数	4.0%
	火災	火災・延焼による焼失率(%) ※焼失棟数/地区内の建物の総数	0.0%
	避難者	避難人口率(%) ※避難所生活者数/地区の総人口	7.9%
風水害	河川はん濫	浸水する可能性がある建物棟数(棟)	0棟
	内水はん濫	浸水する可能性がある建物棟数(棟)	5棟
	土砂災害	土砂災害の影響を受ける可能性のある建物棟数(棟)	0棟

＜地区の災害に対する強さ＞



＜表・グラフの見方＞

被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目ごとに地区の災害特性を5段階の危険度で表したものです。「5」が最も災害の危険度が高いことを表しています。したがって、グラフの六角形の面積が広いほど、地域が総合的に「災害に弱い」ことを示しています。

15. 地区の災害特性

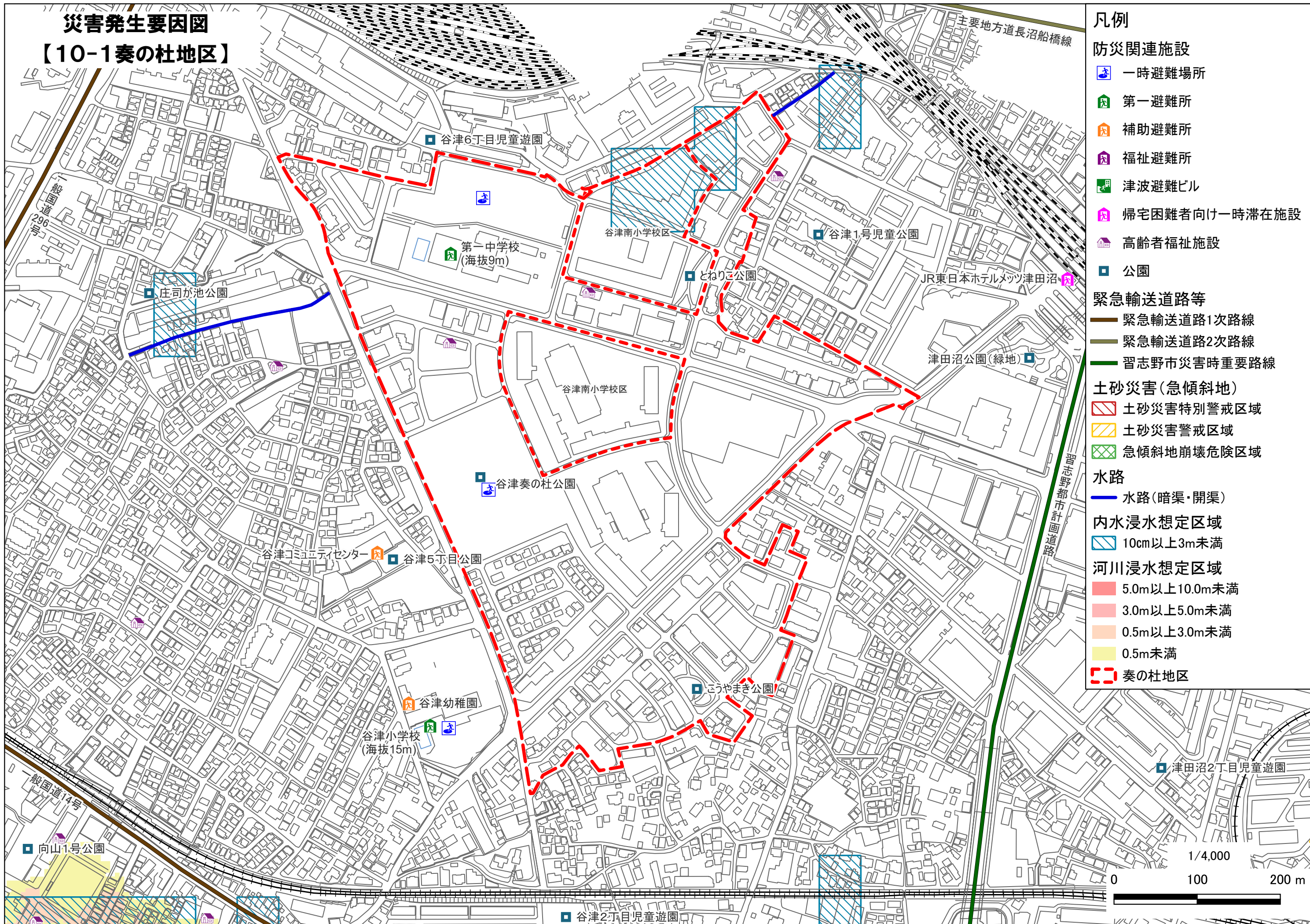
問題点	内容
地震災害	<input type="checkbox"/> 揺れ・液状化による被害 千葉県北西部直下地震（M7.3）が発生した場合、震度6弱～震度6強の揺れと予測される。奏の杜1丁目の一部に液状化が発生する可能性が高い区域がある。建物全半壊率は4.0%である。
	<input type="checkbox"/> 火災による被害 地震火災による焼失は予測されておらず、焼失率は0%である。
	<input type="checkbox"/> 避難環境 予測される避難所生活者数は地区内の7.9%にあたる656人である。また、本地区は船橋市と隣接しており、災害時には本地区の避難施設に市域を越えて避難してくることが予想され、避難所等の対応に支障をきたす可能性がある。
風水害 土砂災害	<input type="checkbox"/> 河川はん濫 当該地区においては河川はん濫の想定はないため、河川はん濫に対する危険性は低い地区である。
	<input type="checkbox"/> 内水はん濫 内水はん濫により、浸水する可能性がある建物棟数は5棟と予測される。奏の杜1丁目の一部が主な浸水想定区域であり、想定浸水深は10cm～50cmである。
	<input type="checkbox"/> 土砂災害 当該地区においては、土砂災害警戒区域・特別警戒区域が指定されていないため、土砂災害に対する危険性は低い地区である。
避難環境	<input type="checkbox"/> 一時避難場所 一時避難場所として、第一中学校、谷津奏の杜公園が指定されている。 <input type="checkbox"/> 第一避難所 第一避難所として、第一中学校が指定されている。 <input type="checkbox"/> 補助避難所 地区内に補助避難所は指定されている施設はない。 <input type="checkbox"/> 福祉避難所 地区内に福祉避難所に指定されている施設はない。
防災施設関係	<input type="checkbox"/> 防災倉庫 地区内には防災倉庫が第一中学校に設置されている。 <input type="checkbox"/> 非常用給水施設 非常用給水施設が谷津奏の杜公園に設置されている。
その他	人口密度が高い地区のため、避難時の行動には注意を要する。

16. 防災対策の方向性

防災対策の方向性	
既存建築物の耐震性の確保	■家屋の安全対策実施の促進 昭和55年以前の建築物の耐震診断・耐震補強等を促進する施策を積極的に実施する。特に、不特定多数の人が利用する施設、学校、行政関連施設等の応急対策上重要な施設、要配慮者利用施設、病院施設等について、耐震性の確保に配慮する。 また、耐震診断と耐震改修工事等に関する補助金制度や、簡易耐震診断、家具の固定等の安全対策について、住民に周知・啓発する。
液状化対策の推進	■ライフライン施設の強化 地盤の改良や施設の耐震化・液状化対策により、地震・液状化に強いライフラインづくりを推進する。 ■応急対応体制の整備 ライフライン被害に対し、迅速に応急復旧に取りかかれるよう体制を整備する。市民生活を保持できるように、トイレや飲料水等の応急対策について強化・推進する。 ■住民への知識普及・啓発 液状化に関する正しい情報を呼びかけ、住民の防災意識を高揚する。
火災・延焼防止対策の推進	■初期消火についての周知徹底 家庭での初期消火の徹底を図るため、消火器具の設置を促進する。また、住民や地域に対して初期消火に関する知識、技術の普及を図るため、防災訓練を積極的に実施する。 ■危険物施設の安全確保 消防法に定められた危険物取扱施設（貯蔵所・取扱所）の耐震性を確保する。 ■防災空間の整備 延焼拡大を未然に防ぐため、建築物の不燃化を図る。また、火災の延焼防止や一時的な避難場所として重要な役割を担う緑地・都市公園を計画的に整備する。
避難拠点の整備	■避難所・避難場所の確保 災害時における要配慮者や女性の避難生活に配慮し、避難所等への計画的な備蓄や必要な物品の確保など、避難所の生活環境対策を推進する。
避難体制の整備	■防災・減災意識の高揚 り災者を抑制するために住宅の耐震化が重要であることを住民に教育・啓発し、防災・減災意識の高揚を図る。 また、ライフラインの途絶等に備え、家庭での水・食料や簡易トイレ等の備蓄を促進する。
河川はん濫・内水はん濫対策の推進	■住民への知識普及・啓発 河川はん濫・内水はん濫の危険性を事前に把握できるよう、ハザードマップ等を活用した知識の普及・啓発を図る。 ■気象情報等の発信体制の強化 大雨等の気象情報、避難情報や警戒レベル等を、状況に応じて有効な伝達方法で、迅速かつ的確に発信できるよう体制を検討する。
土砂災害に対する警戒・避難体制の整備	■住民への知識普及・啓発 土砂災害が発生する危険性がある地域住民に対し、土砂災害の危険性を認識し、早めの自主避難が行えるよう知識の普及・啓発を図る。 ■土砂災害に対する警戒・早期避難体制の整備 降雨時の気象情報等を把握し、早期の警戒活動や避難情報を判断する体制を整備する。
その他	■自主防災組織活動の促進 防災活動を行うに当たり、住民が地域ごとに団結し、組織的に行動することによってその効果が最大限に発揮できることから、自主防災組織活動を促進する。

災害発生要因図

【10-1奏の杜地区】



凡例

防災関連施設

- 一時避難場所
- 第一避難所
- 補助避難所
- 福祉避難所
- 津波避難ビル
- 帰宅困難者向け一時滞在施設
- 高齢者福祉施設
- 公園

緊急輸送道路等

- 緊急輸送道路1次路線
- 緊急輸送道路2次路線
- 習志野市災害時重要路線

土砂災害(急傾斜地)

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 急傾斜地崩壊危険区域

水路

- 水路(暗渠・開渠)

内水浸水想定区域

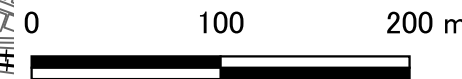
- 10cm以上3m未満

河川浸水想定区域

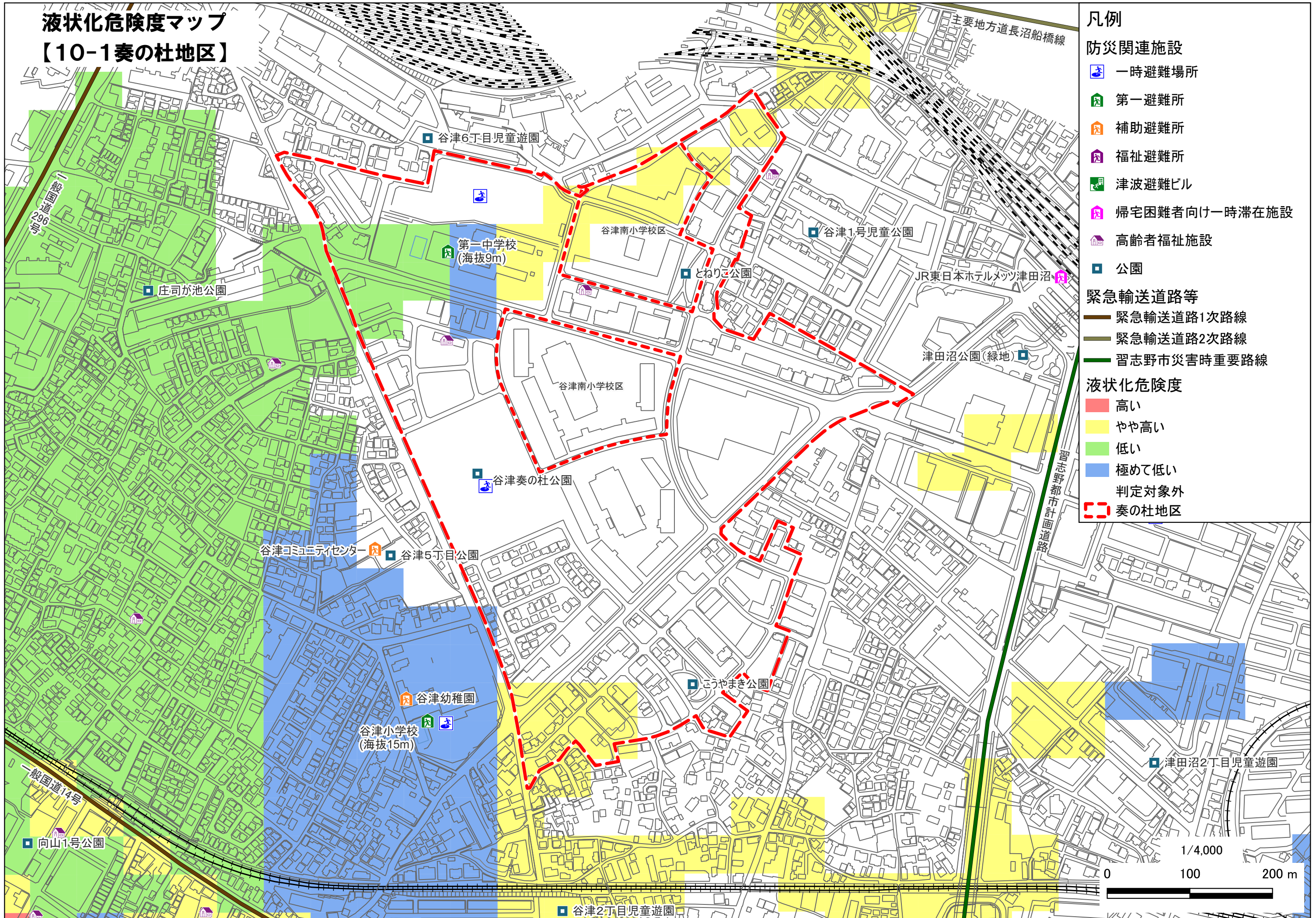
- 5.0m以上10.0m未満
- 3.0m以上5.0m未満
- 0.5m以上3.0m未満
- 0.5m未満

- 奏の杜地区

1/4,000



液状化危険度マップ 【10-1奏の杜地区】






凡例







防災関連施設

-  一時避難場所
-  第一避難所
-  補助避難所
-  福祉避難所
-  津波避難ビル
-  帰宅困難者向け一時滞在施設
-  高齢者福祉施設
-  公園

緊急輸送道路等

-  緊急輸送道路1次路線
-  緊急輸送道路2次路線
-  習志野市災害時重要路線

液状化危険度

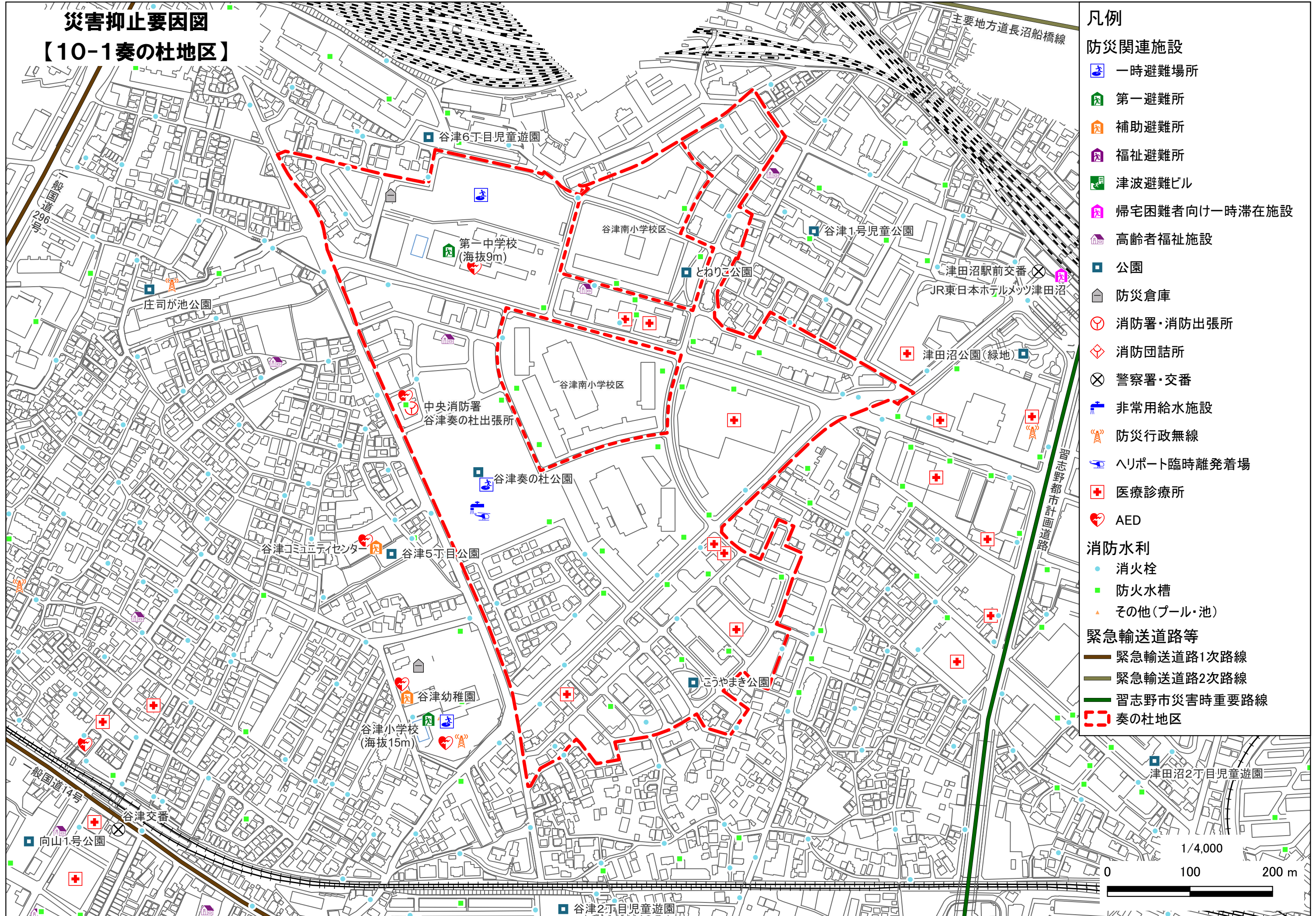
-  高い
-  やや高い
-  低い
-  極めて低い
-  判定対象外
-  奏の杜地区

1/4,000



災害抑止要因図

【10-1奏の杜地区】



凡例

防災関連施設

- 一時避難場所
- 第一避難所
- 補助避難所
- 福祉避難所
- 津波避難ビル
- 帰宅困難者向け一時滞在施設
- 高齢者福祉施設
- 公園
- 防災倉庫
- 消防署・消防出張所
- 消防団詰所
- 警察署・交番
- 非常用給水施設
- 防災行政無線
- ヘリポート臨時離発着場
- 医療診療所
- AED

消防水利

- 消火栓
- 防火水槽
- その他(プール・池)

緊急輸送道路等

- 緊急輸送道路1次路線
- 緊急輸送道路2次路線
- 習志野市災害時重要路線
- 奏の杜地区

1/4,000

0 100 200 m